

事業の背景・目的

ホロテンナンショウの生息域外保全と種子繁殖をすすめるためには、生育特性の解明、栽培法の確立、栽培場の整備、栽培技術・知識の継承が必要で、自生地調査と、保有する個体の継続栽培し各種情報を得なければならない。ハザクラキブシは生息域外保全を行う上で危険分散を図る必要があり、保有する個体を栽培・増殖し、栽培技術・知識の継承も行わなければならない。得た情報は生息域内外の保全を行えるよう植物園間で共有を図る。また、普及啓発を図るため展示場所の整備を行う。

事業の内容

事業① ホロテンナンショウ保全事業

自生地調査を行い、個体数や環境の変化、新たな自生地の探索等を行った。
保有個体の栽培環境の改善を図り特性情報を記録した。



保有個体の塊茎

事業② ハザクラキブシ保全事業

保有個体の維持を続けながら特性情報を蓄積した。
挿し木にて増殖し危険分散を図った。



挿し木苗

事業③ 普及啓発事業

保全事業の紹介と普及啓発を図る
掲示場を整備した。



保全事業の紹介

得られた成果

ホロテンナンショウ保全事業

- ・自生地調査では新たに6個体を確認し位置情報を記録した。前2年確認分とあわせると40個体を確認した。サンプル数が増えたことで、より密な情報収集を行えるようになった。保有するホロテンナンショウは調査で得た情報をもとに生育環境を整え栽培した結果、塊茎の直径が16mmに生長した。(前年度は径12mm)

ハザクラキブシ保全事業

- ・保有個体は、前年度までに得た経験をもとに育成し、高さ30cmの幹回りが前年度の90mmから95mmになった。挿し木にて増殖し危険分散を図ることができた。

普及啓発事業

- ・多様性保全の普及啓発、本事業を紹介するポスターを掲示し多くの来園者に見てもらうことができた。



ホロテンナンショウの果実